

文化財センター通信

【かざぐるま】

# 風車

第 33 号



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター

第1回

## 紀三井寺 文化財建造物の保存修理

紀三井寺の三棟の重要文化財の保存修理工事が始まり、設計監理業務を当文化財センターが受託することとなりました。今回はこの修理工事の特集です。



楼門修理前の正面全景

### 紀三井寺（護国院）

和歌山市の南西に位置する護国院は、通称を紀三井寺といえます。和歌山の方ならば、誰しもその名を聞いたことのある、有名な寺院です。宝亀元年（七七〇）に、渡来僧の為光上人によつて開基された古刹で、上人は片男波を通して和歌浦を一望できる風光明媚な名草山に、十一面観世音菩薩像一字を建立して安置し、これが寺の起りとされています。歴代の天皇の行幸があり、隆盛を極めました。

江戸時代になってからは、紀州徳川家の歴代藩主が頻繁に來山しまし

### — 第 33 号の主な内容 —

1. 紀三井寺 文化財建造物の保存修理  
第 1 回

◎重要文化財福勝寺保存修理工事事務所◎  
649-0144 海南市下津町橋本1065番地  
tel./fax. 073-494-0312

◎重要文化財旧中筋家住宅保存修理工事事務所◎  
649-6324 和歌山市栴直148番地  
tel./fax. 073-477-5969

た。また西国三十三所観音霊場の第二番目札所ともなり、観音信仰の隆盛に伴い、多数の庶民の信仰も集めました。境内には名称の由来となっている、清浄水、楊柳水、吉祥水の三井より清水が湧き出し、大規模な本堂を中心とした伽藍、和歌浦を見渡す眺望、二二三一段の結縁坂、古木の桜など、見どころが多く、今も全国から多数の人たちを集めています。

### 重要文化財護国院多宝塔、鐘樓、楼門

伽藍は名草山西側の中腹に開かれ、北端に本堂と御殿が構えられています。その東には開山堂、多宝塔、三社権現、護摩堂、鐘樓などの諸堂が並んで建っています。結縁坂を降りた山裾

には、楼門が構えられています。このうち多宝塔、鐘楼、楼門が国の重要文化財です。本堂は県指定文化財になっています。

#### 【多宝塔】

三間多宝塔、本瓦葺の形式で、室町時代の文安六年（一四四九）に建立されたものです。丹塗りの塗装が施されたプロポーションが非常に美しい多宝塔で、明治四一年（一九〇八）に、国の特別保護建造物（現在の国宝・重要文化財）に指定されました。承応二年（一六五三）、享保七〇八年（一七二二〜二三）、天明三年（一七八三）に修理がなされ、とりわけ享保修理は解体するほどの大きな修理であったとされています。

昭和二五年（一九五〇）に、ジェーン台風による倒木で上層が倒壊する大きな被害を受け（p.4写真）、翌年、復旧の解体修理がなされました。

#### 【鐘楼】

桁行三間、梁間二間、袴腰付鐘楼、入母屋造、本瓦葺の形式で、天正十六年（一五八八）に建立され、様式的にも桃山時代のものとされています。こ



多宝塔修理前の全景

れも丹塗りの軽快なデザインの鐘楼で、多宝塔と同じ明治四一年に特別保護建造物に指定され、昭和一一年（一九三六）に解体修理がなされています。

#### 【楼門】

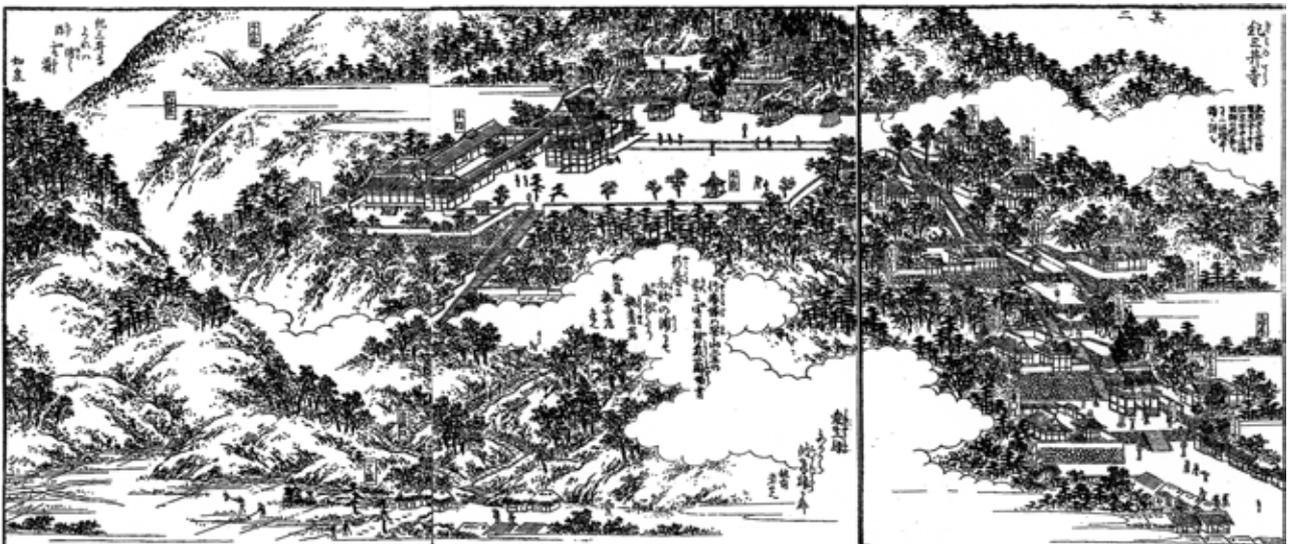
三間一戸楼門、入母屋造、本瓦葺の形式で、中央間に門通りがあり、脇間には仁王像一对を祀っています。

永正六年（一五〇九）に再建、永禄二年（一五五九）に修理されたと伝わっています。安永三年（一七七四）に半解体程度の大きな修理がありました。明治四一年に特別保護建造物に指

定されています。翌明治四二年に解体修理がなされました。昭和四〇年（一九六五）には再度の解体修理がなされています。

#### 保存修理の概要

護国院では近年になって境内の重要文化財三棟の建物の塗装や屋根が破損してきたため、「重要文化財護国院多宝塔ほか2棟の保存修理事業」を立ち上げました。事業の期間は平成十八年十一月から平



『紀伊国名所図会』に描かれた紀三井寺（同書より転載）

成二十年三月までの十七ヶ月間です。つぎに具体的な工事内容を見ていきましょう。

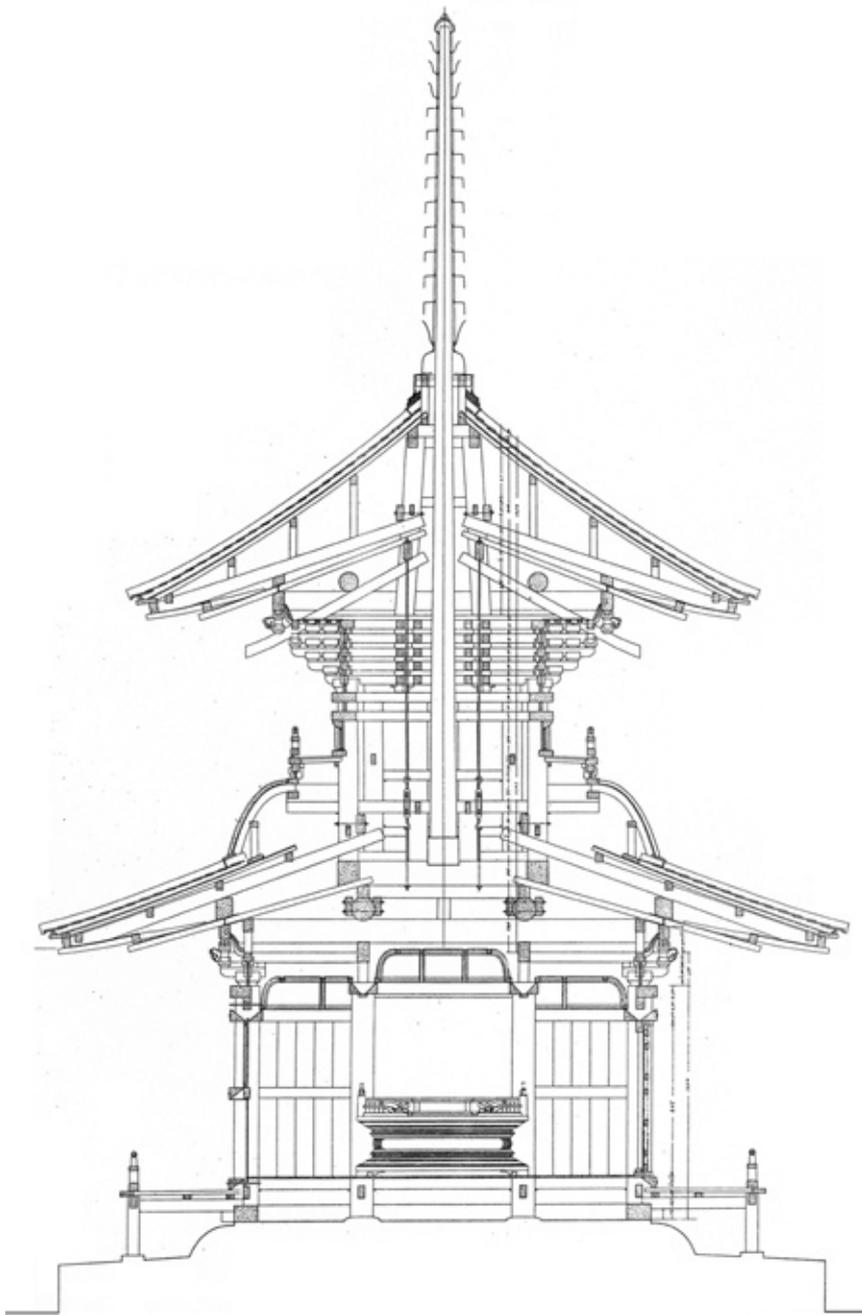
### 【多宝塔】

多宝塔は昭和二六年（一九五二）に、災害復旧で解体修理がなされていまず。それ以来、大きな修理はありませんが、下層屋根の上層屋根雨落ち部分から雨漏りをきたし、一部は野地まで腐らせてしまっていました。また木部に塗られた塗装が、全体にはげてきている状態でした。

今回の修理では下層屋根の本瓦葺きをいったん解体し、腐朽した野地板や軒先の茅負、裏甲などを取り替える工事を行います。現在は腐朽部分の解体を終えた状態です。破損した瓦は同じ形で新調し、野地や軒先の修理後は、在来通りに瓦を葺く予定で進めます。

木部に塗られた塗装はすべていったんはがし、丹塗り、胡粉塗り、黄土塗りなどの塗装を伝統的な工法で塗る予定です。現在は塗装をはがす作業がほぼ完了した状態です。

修理工事報告書の写真や現状塗装



多宝塔の断面図 大きな軒の出に注目（修理工事報告書より転載）



鐘樓の修理前全景



多宝塔に仮設足場をかける



多宝塔の塗装を落としている状況

面の下を見ると、昭和修理で塗装の仕様が替えられていることがわかります。現在どのような仕様で塗装するか検討中で、文化庁の指導をあおぎながら実施計画を立案していく予定です。

この他には下層の棧唐戸の締め直しを行うほか、軒先に吊されている風鐸や長押の唄金具などで、無くなっているものがあるので、これら金具を新調して取りつける工事を行います。

### 【鐘 楼】

鐘楼は昭和十一年に解体修理がなされており、その後は大きな修理はありませんでしたが、近年になって降り棟付近で雨漏りをきたし、一部の軒先が腐朽してしまっている状態です。また袴腰の板壁も雨水で一部が腐朽してしまっています。木部の塗装は経年によってはげ落ちてきています。

今回の修理では、袴腰をいったん解体し、腐朽した壁板や土台などの部材を取り替えるほか、屋根は東側の降り棟付近を部分的に解体し、雨漏りによって腐朽した野地を修理する予定です。また、木部に塗られた塗装はすべてはがし、丹塗り、胡粉塗り、黄土塗



多宝塔昭和25年の破損状況（修理工事報告書より転載）



多宝塔上層は複雑な四手先組物で軒を支えている

りの塗装を施す予定ですが、平成十九年度より実際の工事にかかることになります。

### 【楼 門】

楼門は明治四二年、昭和四〇年の二回にわたり解体修理されています。近年になって塗装の劣化が目立つようになってきました。

今回の修理では、他と同様、丹塗り、胡粉塗り、黄土塗りをいったんはがして、塗り直すほか、壁の漆喰塗りを塗り直す工事を行います。現在は仮設足場を掛け、塗装をはがす作業を行っています。

楼門もまた多宝塔と同様に、前回の修理で塗装の仕様が一部替えられています。現在どのような仕様で塗装するのか検討中です。

参詣者が多数通り抜ける軒内土間叩きは一部で割れて表面が浮いてしまっているところがあります。今後の活用を考えて、セメントを混入した土間叩きで修理する予定です。

今後は工事の様子や塗装調査の報告などを、本誌でお伝えしていきたいと思えます。

（御船達雄）

### ▼ 多宝塔の下層屋根瓦の解体作業



### 【お知らせ】

当センターのホームページでは、旧中筋家住宅、福勝寺の保存修理の様子を月ごとに報告していきます。ぜひご覧下さい。

TOP | 文化財建造物課の業務 | 旧中筋家住宅、もしくは福勝寺 | 工事報告

## 風車 第33号

平成19年3月15日発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404 和歌山市湊571-1  
tel.073-433-3843  
fax.073-425-4595  
e-mail maizou-1@wabunse.or.jp  
<http://www.wabunse.or.jp>